おはなしシリーズ

11

つるの おんがえし





あるあさ　わかものが　くさかりにいくと
つるが　わなに　かかっていました。
かわいそうに　おもった　わかものは
わなを　ていねいに　はずしてやりました。
つるは　うれしそうに　とんでいきました。



とん　とん　とん。
よるに　なって　だれかが　わかものの　いえの　とを
たたく　おとが　しました。
みると　うつくしい　むすめが　たっていました。
「みちに　まよったので　いえに　とめてください。」



いちにちたっても　むすめは　かえろうとしません。
「あなたの　およめに　してください。」
「おれは　びんぼうなので　よめに　できない。」
「びんぼうでも　いいから　およめに　してください。」
こうして　ふたりは　なかよく　くらしはじめました。

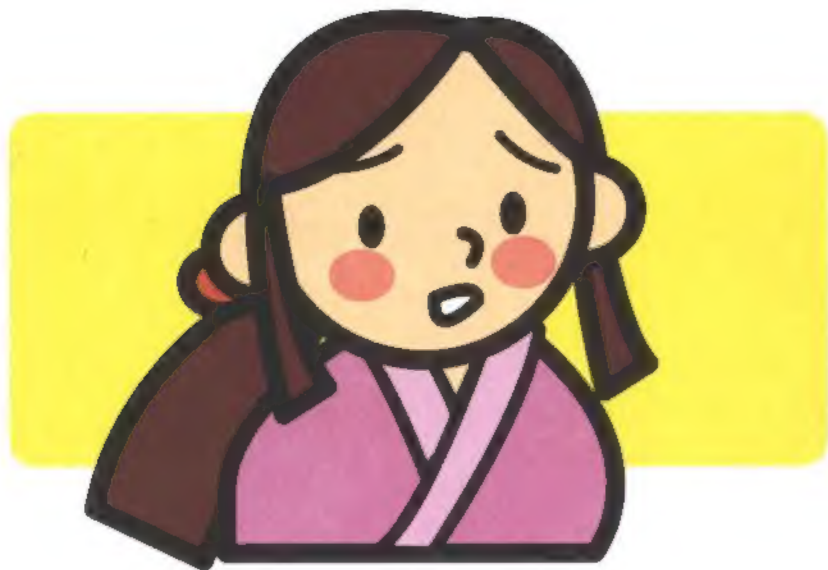


しばらくしてから　むすめは　わかものに
はたおりべやを　つくってほしいと　たのみました。
「わたしが　はたを　おっているあいだは
けっして　へやを　のぞかないでくださいね。」
むすめは　へやに　はいって　はたおりを　はじめ
あさになると　きれいな　ぬのを　もって　でてきました。



「この　ぬのを　まちで　うってきてください。」
ぬのは　たかい　ねだんで　すぐに　うれました。
「けっして　へやを　のぞかないでくださいね。」
むすめは　まいばん　きれいな　ぬのを　おりますが
わかものは　いとも　かってやらなかったのに
どうして　ぬのが　おれるのか　きになってきました。


とうとう　がまんが　できなくなった　わかものは
へやを　のぞいて　おどろきました。



つるが　はねを　ぬきとって　ぬのを　おっていたのです。
「わたしは　あなたに　たすけられた　つるです。
すがたを　みられたので　おわかれするしかありません。」
むすめは　へやから　でてきて　そういうと
つるの　すがたになって　とんでいってしまいました。